

ねりま小中一貫教育レポート

○●○ 第 9 号 ○●○

平成 24 年 10 月

発行：教育企画課・教育指導課

練馬区内の小・中学校では、さまざまな小中一貫教育の取組が行われています。「ねりま小中一貫教育レポート」では、小中一貫教育の取組を随時報告します。

第9号では、小中一貫・連携教育研究グループの一つである「八坂小学校」と「八坂中学校」の取組を紹介します。

【研究主題】 小中9年間を見通した児童・生徒の育成
～ 児童・生徒が自ら学び生活する力の育成 ～

◆食育をテーマとした小中一貫教育

八坂小・八坂中では、学区内に生産農地が多いという特色を活かして、近隣の農園



のご協力をいただき、農業体験や地元の食材を使った小中連携親子料理教室を行うなど、継続的に食育を実践しています【写真⑤】。

子供たちの食に関する実態を把握するため、昨年度、小中の全学年で、子供と保護者にそれぞれ、食事のマナーや好き嫌いについてアンケートを行いました。

子供たちの実態を踏まえながら、小学校の生活科で、町探検と給食の献立に取り入れられている地元の野菜を結び付けて学んだり、中学校の理科で、生物と食べ物の関係から「よくかんで食べること」の大切さを学習したりしています。

◆小中一貫教育で体力向上をめざす

体育の研究授業では、持久走を取り上げて、「からだづくり」における小・中学校の接続について協議しました。講師の東京学芸大学／後藤先生からは、「小学校では、走り続けることのできる自分のペースを、からだの感覚でつかませることが『ねらい』となる。中学校では、『有酸素運動から無酸素運動に切り替わる時に、ちょっと我慢して走ると持久力が高まって体力があがる。健康にもいいよ』と知的な理解を促して、賢く頑張ることを教えられるといい」とのお話がありました。



◆算数・数学で乗り入れ授業を実施

定期的な乗り入れ授業の試行実施として、八坂中の数学の先生が、八坂小6年生の算数授業にチームティーチング（T2）で入っています。八坂小6年算数は2学級3展開なので、数学の先生は、月・火・木曜と週3回、八坂小に通っています。

〈乗り入れ授業を担当している数学の先生のお話〉

小学校で算数の授業を見ていると、数学の解き方と違って驚くことがあります。比の教え方でも、中学校では文字式を使い、面積図で説明することが多いのですが、小学校では、面積図で比や割合を説明することはほとんどない、など多くの発見がありました。問題の解き方の発想が違うだけでなく、発表や話し合いに時間をかける小学校と、練習問題が多い中学校で授業の型が違うので、考えさせられることが多くあり、非常に勉強になりました。

八坂中の1年生に対して9月に行った「数学アンケート」では、数学が好きな子と嫌いな子の割合は、ほぼ半々でした。半数以上の子が「小学校の算数と比べて難しくなった」と答えています。9割以上の子は「数学がもっとできるようになりたい」と答えています。子供たちの学習意欲を大切にして、教科連携に取り組んでいます。

◆通常学級における特別支援教育の工夫

文部科学省の全国調査では、通常学級に在籍する子供の6.3%に学習面や行動面で著しい困難があると推測されています。

八坂小・八坂中では、LD（学習障害）、ADHD（注意欠陥／多動性障害）、高機能自閉症などの発達障害のある子供たちに配慮した授業は、全ての子供にとっても分かりやすい授業となる、という認識のうえで、「授業につかう教具を置く位置を指定する」「一目でその日に学習することがわかるように掲示する」など、各教科で「教育におけるユニバーサルデザイン」の実践を試みました。

10月には、小中合同で講演会を開き、全員で勉強しました【写真⑥】。講師の杉並区立済美教育センター／月森指導教授から「問題行動を叱るだけでは解決にならず、自尊感情が低下して反抗的になる。良い状態のときに課題に向かわせ、褒めて達成感をもたせることが大事。その



子の得意なことを見つけるのが支援の第一歩である。中学進学は、特別な支援を要する子供には大きなギャップとなる。子供の将来を見据えて、この子の能力をどうやったら伸ばせるか、と考え、課題に優先順位を付けて工夫してほしい」とお話がありました。